

## 日本の学校検尿における課題と対策

### 日本の学校検尿における課題と対策： 「石川県における学校検尿の現状」

太田 和秀

国立病院機構 金沢医療センター 小児科

日本で学校検尿が開始されて半世紀が過ぎようとしている。日本小児腎臓病学会でも日本の学校検尿システムの全貌を把握しようと各種努力がなされている。この歴史と今後の展望などに関しては、この後に御講演いただく柳原剛先生にお任せすることとし、私は、5年前より金沢市で開始した「新・学校検尿システム」を紹介する。石川県における学校検尿システムは「B方式」を採用しており、三次精査の受診機関の指定はなく、その後の追跡調査もされていなかった。そこで、石川県予防医学協会と協力し、同協会に「学校保健部会」を2002年度から立ち上げ、県下の学校を対象に三次精査受診率、最終診断名などのアンケートを実施してきた。しかし、金沢市以外の学校でしか協力が得られず、金沢市教育委員会は、個人情報保護の観点から協力出来ないと頑なに拒まれ続けてきた。そこで、金沢市医師会に腎臓検診委員会を立ち上げ、それを基盤に、学校心臓検診、地域住民の「すこやか検診」と同じシステムを用いて金沢市教育委員会の協力を得るように試みた。まず、金沢市医師会から学校検尿の見直しと新システム構築のため、金沢市に協力を求め予算を組んで頂く要望書を提出した。この方式は、既に施行されている学校心臓検診、地域住民の「すこやか検診」と全く同じ方法であったので金沢市行政サイドの承諾はすんなりと得られた。予算が付いたところで、金沢市医師会内に設置した腎臓検診委員会に金沢市教育委員会、石川県予防医学協会のメンバーも加えた。新システムには、緊急受診システムの採用のほか、三次精査の結果を金沢市医師会にもすべて郵送にて送られるようにした。更に結果判定のための「腎臓検診判定委員会」も組織した。この新システムは、2020年度からの施行となった。金沢市の学校検尿は、全て石川県予防医学協会が担当しているので、一次、二次、三次精査の結果が全て把握できた。秋に「腎臓検診判定委員会」を開催し、途中経過を確認した。未受診者のうち早々に三次精査を受けた方が好ましいと思われた児童・生徒に対しては、教育委員会を通して学校から再度受診を促すことも出来た。今回、直近5年間の結果に関して報告する。